

第37回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の本学創立百周年を記念した篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて、卓越した成果を収めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

【学術・文化の分野（団体）】

HARChuo 代表:杉本 淳 (メンバー:内河 音乃、大橋 健太、佐々木 優真、西川 泰大、藤田 光、稲葉 大晴、小島 拓也、甲斐 亮吾)	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	2023年7月に開催された自動制御に関する国際会議での国際ロボット競技大会(World Robot Summit, Future Convenience Store Challenge, Customer Interaction Task)に出場し、最終出場チーム3チーム中1位の評価を受けた。本競技は、経済産業省及びNEDOが主催する知能ロボット技術に関する競技大会であり、特にロボティクス技術を導入した未来のコンビニエンスストアに関する課題を扱うものである。同団体はロボット技術を活用した接客サービスに関する提案をし、同競技会にてデモンストレーションを行なった。その成果が高く評価され、同競技1位(Winner)となった。Winnerとなるためには提案内容が優れているだけでなく、高い精度、高い信頼性でのデモンストレーションが必須である。卓越したアイデアと高い技術力により、同団体は同競技にて3連覇を達成した。
--	------------------------------	---

【学術・文化の分野（個人）】

今 井 康 裕	法学部 2年 (学術連盟法学会所属)	2023年10月21日に開催された、第72回末川杯争奪法律討論会に、中央大学を代表して参加し、立論の部において第1位を獲得した。
大 塚 あ み	経済学部 4年	「入門ICT演習」における学習成果を詳細に分析・一般化し、生成系AI (ChatGPT) をプログラミング技術の習得に応用することの有用性を示すとともに、これをソフトウェア工学の学習と融合させ、ソフトウェア開発プロセスを理解する枠組みを提案し、ネットワークソフトウェア若手研究奨励賞として評価された。
小 倉 祐 弥	理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻	C-14年代測定などの従来法では困難な活断層地形の年代決定を可能にするもので、活断層の活動性・危険性評価のための基礎研究として高く評価できる。また、この成果を発表した日本活断層学会では、よく準備された明かな説明・質疑応答により若手優秀講演賞を受賞した。この賞は准教授・助教クラスを含む39歳以下の発表者を対象としたもので、その価値は非常に高い。
津 田 妃 奈 子	理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻	卒業論文から修士論文まで一貫して、データや情報が未整備の中進国や開発途上国を対象にした水害リスク評価手法を開発してきた。その成果について、これまでに国内発表5件、国際発表3件を行い、高く評価されている。特に、5-Year Impact Factor 4.1であるProgress in Earth and Planetary Science誌への掲載は顕著な功績である。
林 念 念	理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻	2023年度日本ADHD学会において、「ADHD児におけるメチルフェニデート服用終了後の脳活動についての探索的」という演題で優秀発表賞を受賞した。本賞は、日本ADHD学会で口頭発表された全研究内容の中から、所属や職階を問わずに選ばれるものである。対象は1名のみで、大学教授、医師らの発表者の中、学部4年生での受賞は快挙と言える。本研究は、ADHDの薬物治療中止者において、健康者と同様の脳活動を見出した。これは成長に伴って脳が成熟したことにより子供の脳機能が改善したという事実を反映しており、ADHD治療への重要な貢献となりうる内容である。
石 田 裕 己	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	The 2023 IEEE Conference on Systems, Man, and Cybernetics (SMC 2023)では約1000人の参加者の中で、2段階落下の提示によるVR空間内での落下感覚の向上に関する研究の発表を行った。これについて研究の将来性を認められ、Best Student Paper Award-Finalistに選出された。
内 河 音 乃	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	ベトナムにて開催されたIEEE/SICE SII2024で筆頭著者として論文発表を行い、発表論文が SICE International Young Authors Awardを受賞した。同論文では、成年被験者と高齢被験者の異なる年齢層による人-ロボットインタラクションにおけるロボットの振る舞いを調査、比較するものであり、今後のロボットの生活空間での活用を促進するための重要な知見を示している。
甲 斐 亮 吾	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	ベトナムにて開催されたIEEE/SICE SII2024で筆頭著者として論文発表を行い、SICE International Young Authors Awardを受賞した。“Development of an Environmentally Independent Mobile Manipulation System for Product Disposal in Retail Store” という発表が受賞対象となっている。本研究では、コンビニエンスストアや小売店という実意環境を想定し、その課題について考えられている。その課題について、ハードウェアおよび3つのシステムを提案しており、それらのシステムが統合され、IFAC2023でのWorld Robot Summit陳列廃棄タスクにて大会に参加することで実稼働させている。課題発見からシステム構築および実稼働まで行ったことが評価できる。また同君は、他にもマニピュレーションに関する研究での学会発表を行っている。
梶 原 美 紀	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	修士研究の成果発表が日本非破壊検査協会および日本材料学会より、それぞれ新進賞および優秀講演賞を受賞した（上位10%程度の優秀な発表者への贈賞）。また、筆頭著者の論文が材料工学のトップジャーナルであるActa Materialia（インパクトファクターIFが9.4）に採択された。
喜 田 龍 哉	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	マイクロナノ工学分野に関する幅広い研究発表を行う国際会議である、34th 2023 International Symposium on Micro-NanoMechatronics and Human Science (MHS2023)において、上皮細胞の細胞間バリア機能計測用デバイスに関する研究発表を行いBest Paper Awardを受賞した。また、機械学会年次大会では、発表総数の上位5%に対して与えられる日本機械学会若手優秀講演フェロー賞を受賞した。なお学術論文”Horizontal and vertical microchamber platforms for evaluation of the paracellular permeability of an epithelial cell monolayer” が、バイオチップの分野で有名な査読付き国際学術誌であるLab on a Chip誌（2022 IF=6.1）に採択されており、候補者の開発した上皮細胞の細胞間バリア機能計測用デバイスが医薬分野の発展に寄与することが期待される。
澤 島 武 博	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	ベトナムにて開催されたIEEE/SICE SII2024で筆頭著者として論文発表を行い、SICE International Young Authors Awardを受賞した。「Instance Segmentation-Based Markerless Tracking of Fencing Sword Tips」という同君の研究が受賞対象である。この研究は、フェンシング競技における剣先検出の課題について考えられている。剣先が高速で動きブレによりカメラに映らなくなる際にも対応し、フェンシングの剣先を画像のみを用い連続的な検出を実現し、実際の試合動画にて評価実験を行った点が評価できる。さらに、同君はこの技術に応用し、検出された剣先を用いて試合状況を可視化する進行中の研究にも取り組んでいる。
柴 橋 和 真	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	研究テーマ「EVパワートレインノイズ知覚を考慮した車室内サウンドデザイン」が公益社団法人自動車技術会大学院研究奨励賞を受賞した。また、自動車用動力伝達技術研究組合(TRAMI)との共同研究を主体的に推進し、斬新な研究成果が得られ、日本機械学会および自動車技術会にて優秀賞を受賞した。さらに、講演者および共著者として学術講演およびポスター発表件数は計17件あるなど、顕著な研究業績が認められた。
杉 本 淳	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	ベトナムにて開催されたIEEE/SICE SII2024で筆頭著者として論文発表を行い、発表論文が SICE International Young Authors Awardを受賞した。同論文では、ロボティクス技術を導入した未来のコンビニエンスストアでの接客に関する提案であり、コンセプトの明確化からサービスとしての実装、システムとして実現し、コンテスト (World Robot Summit, Future Convenience Store Challenge, Customer Interaction Task) にて最終出場チーム3チーム中1位の評価を得た成果を論文にまとめたものである。技術的な評価だけでなく、国際会議にて学術的にも高い評価を受けた。

寺山伊織	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	第23回計測自動制御学会では839件の発表の中で腸を模倣した蠕動運動型混合搬送装置による粉体粒子径判別に関する成果を発表した。これについて論文及び講演が優秀と評価されたので、優秀講演賞を受賞した。
藤井秀行	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	切削現象の高精度シミュレーションに関連する研究に精力的に取り組み、次世代DX技術として期待されるデジタルツイン技術を開発してその実用性を実証した。本成果は精密工学会の2023年度秋季大会において2件の企業賞として高い評価を得た。また、1件のジャーナル掲載と国際会議発表を主体となって成し遂げた。(いずれも筆頭著者)
眞崎二千海	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	切削現象と加工音に関連する研究に精力的に取り組み、次世代DX技術として期待される新しいモニタリング技術を開発してその実用性を実証した。これらの成果は精密工学会の2023年度卒業発表会においてエクセレントプレゼンテーション賞、2023年度秋季大会においてベストプレゼンテーション賞を含む3件の受賞として高い評価を得た。
敷地大樹	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	今年度11月に都内で開催された国内学会において、筆頭講演著者として口頭形式の研究発表を行い、全登壇者の中から優れた講演に対して与えられる学会賞を受賞。電磁波計測に基づく非接触な三次元構造復元手法の創出に関する研究に従事しており、同君が主導的に確立した「目視では見えない内部構造の詳細な理解を可能にする手法」は、独創性の高さが評価されている。また上記受賞歴に加えて筆頭著者として査読付き国際学会論文の掲載、共著者としてIF10以上の査読付き国際英文論文誌掲載や専門書籍誌への分担執筆総説の掲載に貢献している。
松崎勇斗	理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信工学専攻	電磁波計測用センサの高解像度化・多機能化に関する研究に従事しており、同君が主導的に確立した「印刷技術に基づく撮像デバイスの高歩留まりな集積化による非破壊検査用アレイシート」は、独創性の高さが評価されている。上記の受賞歴に加えて、今年度は筆頭著者として査読付き国際英文論文誌及び査読付き国際学会論文への掲載、国内の専門書籍誌への総説の掲載に携わっている。
高山夏実	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	新しい人工酸素運搬体“ストロマブリーヘモグロビンナノ粒子”を合成し、動物実験から赤血球代替物としての安全性と有効性を明らかにした。出血ショックラットモデルに本製剤を投与すると、血圧、心拍数、乳酸値が直ちに回復し、全例が生存した。また、血液生化学検査および病理検査から、主要臓器に影響がないことも実証した。本研究の成果は、人工血液の実用化に突破口を開くものであり、先進医療に大きな貢献をもたらすものと期待されている。
高取祐希	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	独自に開発した触媒的連続反応を駆使して海洋三環性アルカロイド群の集団の全合成を達成した。過去9例の全合成が報告されている(-)-ファシクラリンを、最短記録となる8工程で高効率的に成し遂げたことは特筆に値する。本研究成果は、公益社団法人有機合成化学協会主催の第122回有機合成シンポジウムにて優秀ポスター賞(29件中3件)として表彰された。
中川颯人	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	独自に開発した触媒的連続反応を駆使してピロリジン誘導体の立体多様合成法を開発し、その応用としてアルカロイド天然物の全合成を達成した。本研究成果は、第52回複素環化学討論会にて学生優秀発表賞(111件中6件)として表彰されたほか、英国王立化学会Chemical Communications誌に筆頭著者論文として掲載された。
馬島沙希	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	水中で酸素バブルを噴出しながら自走する高分子マイクロチューブを合成し、その自走速度が光照射で制御できることを見出した。チューブの管壁に含まれる酸化鉄の光熱効果により、酸素発生酵素の活性が変化するためであることを明らかにした。本研究の成果は、光を使ったドラッグデリバリーシステム、病原体捕捉薬、診断キットの開発につながる新技術であり、先端科学に大きな貢献をもたらすものと期待されている。
藤田真悠花	理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻	血液型がなく誰にでも投与できるユニバーサル赤血球“ポリオキサゾリン結合赤血球”を合成し、その形態と酸素親和性を明らかにした。保存安定性や酸素親和性は、使用する架橋剤やポリオキサゾリンの分子量により変化することを見出した。また、本製剤の高い血液適合性も実証した。本研究の成果は、人工血液の実用化に突破口を開くものであり、先進医療に大きな貢献をもたらすものと期待されている。
古屋翔平	理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻	独自のキラル銀錯体触媒とイリデン化合物を用いて、2,5-transスピロピロリジンの合成に成功した。一方、同じ触媒とアルケンを用いることで立体異性体であるcis-ピロリジンが生成することを見つけた。この成果によりピロリジンの立体多様性合成が可能となり、ドラッグディスカバリーへと応用できる。これらの優れた成果が、有機金属化学討論会で表彰された。
藤井康平	理工学研究科 博士課程前期課程 ビジネスデータサイエンス専攻	Asian Network for Quality (ANQ)は、2003年に発足した、アジア諸国により構成される品質組織であり、毎年国際会議(ANQ Congress)を開催している。日本からは日本学術会議協力学術研究団体である「日本品質管理学会」が加盟している。Best Paper Awardは、上位約10%の研究に与えられる賞であり、第1著者である藤井君の功績は大きい。
田端洋	戦略経営研究科 博士課程後期課程 ビジネス科学専攻	論文「革新的な製品の欠陥が企業への態度に及ぼす影響—企業イメージと製品イメージの一致による交互作用効果—」は、戦略経営研究科博士課程ビジネス科学専攻における博士学位申請論文の一部として執筆されたものである。この論文は、学術雑誌「広報研究」に掲載され、日本広報学会より研究奨励賞を受賞した。
【体育の分野(団体)】		
自動車部		2023年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 男子団体優勝 Gran Turismo College League 2023 優勝(4連覇)
ハンドボール部		高松宮記念杯男子66回全日本学生選手権 優勝(3連覇)
【体育の分野(個人)】		
市田龍生都	法学部 4年 (自転車競技部)	第63回全日本学生選手権トラック自転車競技大会1Kmタイムトライアル優勝 第78回全日本大学対抗選手権自転車競技大会1Kmタイムトライアル優勝
井本一輝	法学部 4年 (水泳部)	第99回日本学生選手権水泳競技大会 男子400m自由形優勝、男子1500m自由形優勝
【その他(個人)】		
持田温紀	法学部 4年	東京パラダナススポーツ国際大会での8位入賞を経て、世界選手権に日本代表の主将として出場した。また、UNIVAS AWARDSでサポーティングスタッフ部門の最優秀賞を受賞し、パラ大学祭の運営代表を務める等、多方面で活躍した。

第31回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を取った者に授与するものです。

草野凌	経済学部 4年	論文タイトル： 文化的財・サービス輸出と訪日需要の経済学的分析 —「クールジャパン戦略」の有効性について— 推薦理由： 本論文は、「アニメ」をはじめとした日本の文化的財・サービスの輸出と訪日外国人旅行者数の関係を、精緻な経済理論分析および実証分析によって明らかにしている。本論文は、日本の魅力を海外に伝え、日本の製品の輸出や訪日外国人旅行者を増大させることで日本の経済成長を図ろうとする日本政府の「クールジャパン戦略」の在り方について重要な政策的含意を導いており、非常に優秀な論文である。
田中琴乃	商学部 4年	論文タイトル： 小売業者の延期-投機の選択が物流センターの立地に与える影響—マルチレベル分析による検討— 推薦理由： 本論文は、第24回商学部演習論文大会にて高い評価を得て、学部長賞（商業・貿易部門）を受賞したものである。この論文はスーパーマーケットの物流センターの立地選択問題を、流通様式と出店戦略に基づいて仮説化し、個別店舗、企業、出店地域という3つの異なる集計水準のデータセットを作成して、実証分析を施している。理論的なオリジナリティとユニークなデータセットによる実証分析の点で優れており、学部生として稀有な学術成果と評価できる。
伊藤 真那斗（他6名）	AI・データサイエンス演習 中村ゼミ	論文タイトル： 日本の男性の育休取得を促進するために：中小企業に注目した実証分析 推薦理由： この共同研究論文では、日本において低調な男性育児休暇取得促進に向けた政策提言を行っている。同制度の進展は大企業と中小企業間で大きな差が生じているため、ここでは後者に焦点を当てている。家庭要因、個人要因（経済要因）を踏まえたうえで、職場要因のうち、どのような要因が中小企業での育休取得を阻害しているのかを「全国就労実態パネル調査」を用いて分析した結果、「テレワーク導入の程度」や「残業時間の長さ」、「休暇のとりにくさ」が強く作用していることを明らかにした。なお、これを解消する具体的な政策提言を検討するため、中小企業の被雇用者を対象にWebアンケート調査も補完的分析として実施しており、定性・定量両面から精緻に丁寧なアプローチがなされている。また、予算確保や既存制度との関係についても詳細に調査されており、実行可能性にも配慮されている点は高く評価できる。 本論文は、総合政策学部主催のリサーチフェスタ2023にて6名の審査員（総合政策学部教員）による審査の結果、「優秀賞」を受賞しており、本奨励賞の候補者として強く推薦する。

第29回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

高云舟	経済学研究科 博士課程前期課程 経済学専攻	論文タイトル： 子どもが親の老後の生活満足度に及ぼす影響 —中国における農村部と都市部の比較考察— 推薦理由： 本論文は、急速な高齢化の進む現代中国社会において重要性が高い高齢者の生活満足度に焦点を当てている。15,000以上の個票サンプルデータで中国全体をカバーしているChinese Longitudinal Healthy Longevity Survey を用いて多項順序ロジット分析を実施し、特に中国に都市部と農村部における高齢者の子ども数と世代間支援が生活満足度へ及ぼす影響の地域差について実証的に示すことができている。また分析の対象時期としても、中国の人口分析（一人っ子政策等）の変化も捉えており、高齢者のニーズを踏まえた家族支援の役割を示すなど、これからの中国の政策策定において重要な政策的含意を提供している。 以上のことから、本論文が学術的な新規性ならびに社会課題に対する意義の観点からも非常に優秀な論文として認められる。
-----	-----------------------------	---

第29回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を取った者に授与するものです。

吉居駿恭	法学部 2年 (陸上競技部)	・第100回東京箱根間往復大学駅伝競走大会7区 区間賞（1時間2分27秒） ・日本グランプリシリーズグレード1「Yogibo Athletics Challenge Cup 2023」において、5000Mにて学生歴代10位（日本人学生歴代6位）の13分22秒01を記録 上記の通り、素晴らしい結果を残した。 今後も長距離種目での活躍が大きく期待される。
------	-------------------	---

第27回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であって、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

<p>鵜澤匠吾</p> <p>理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻</p>	<p>論文タイトル： Development of Peristaltic Transfer System to Transport Feces in Space: Proposal of Driving Method Using Pressure Difference in Peristaltic Pump</p> <p>推薦理由： オープンアクセスジャーナル（IEEE Access）に掲載された論文「Development of Peristaltic Transfer System to Transport Feces in Space: Proposal of Driving Method Using Pressure Difference in Peristaltic Pump」は、長期有人宇宙探査において必要とされている有人宇宙滞在技術（ECLSS）のための宇宙トイレおよび排泄物搬送技術の開発という明確な目標のもと工学的に優れた研究を行っている。本研究内容は高い評価を得られており、特許（“移送方法及びポンプ装置”出願番号：2022-117688）を取得している。</p>
<p>岩熊耕平</p> <p>理工学研究科 博士課程前期課程 ビジネスデータサイエンス専攻</p>	<p>論文タイトル： Automatic Multilingual Hypernym-Hyponym Relation Extraction Using a Link Prediction Model（リンク予測モデルによる多言語上位下位関係の自動抽出）</p> <p>推薦理由： 論文「Automatic Multilingual Hypernym-Hyponym Relation Extraction Using a Link Prediction Model」は、日本語、英語、中国語で記載された特許テキストデータから上位下位関係を抽出し、多言語シソーラスを自動構築する手法を提案している。この手法は、敵対的生成ネットワークとリンク予測モデルを組み合わせることで、本来であれば上位下位関係にあるべき欠落した関係を高精度で検出できる点が優れている。この論文は、International Institute of Applied Informaticsが開催した国際会議第14回IIAI International Congress on Advanced Applied Informaticsに採択され、Competitive Paper Awardを受賞している。さらに、査読の評価が優れていることから論文誌IEE: Information Engineering Expressへの投稿を推薦され、現在投稿中である。</p>

第27回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、都市環境学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部都市環境学科及び大学院理学研究科都市環境学専攻に在籍する学生であって、都市環境学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

<p>吉村萌香</p> <p>理工学部 4年</p>	<p>論文タイトル： 要介護者への移動支援を考慮した津波避難計画の検討</p> <p>推薦理由： 吉村萌香氏は、成績優秀で同級生からの信頼も厚い勤勉な学生です。卒業論文では、要介護者への移動支援を考慮した津波避難計画の検討について、I町の現地調査およびデータをもとに実証的な分析を行いました。津波や洪水の危機が迫った時、移動弱者である要介護者の避難をいかに速やかに行うことができるかはきわめて重要な問題です。吉村さんは、健康者が要介護者とペアになって避難する共助に着目し、また避難所の収容人数を明示した避難完了時間最小化問題を解いて、共助の効果について分析を行いました。車いすの導入効果、またそれだけでは津波到達時間までに避難完了できないことから、町の公共施設管理計画を参考に、2か所の避難場所を追加したときの効果を定量的に明らかにしています。この成果はI町にとってもきわめて有用なものであると評価できます。 高い探求心を有し、また外部の研究者とも積極的に意見交換する姿勢は、研究室の他のメンバーにもよい模範となりました。以上のことより、茨木龍雄学術奨励賞の候補者として推薦します。</p>
<p>福岡龍</p> <p>理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻</p>	<p>論文タイトル： 市街地における豪雨時の内水氾濫リアルタイム解析法の構築と避難・減災まちづくりへの活用</p> <p>推薦理由： 福岡龍氏は、人間性に富み、学業への研鑽を継続的に行ってきました。修士論文研究では、内水氾濫現象を高精度に解析可能な内水氾濫解析法を構築しました。そして、この解析法により得られた解析結果を教師データとした内水氾濫リアルタイム解析法を構築し、人吉市街地で生じた幾つかの主要豪雨に対する住民避難を検討しました。これらの成果は避難および減災まちづくりの実現に有益なものと考えられ、修士論文発表会において最も優れた発表を行ったとの評価を得ました。 以上より、茨木龍雄学術奨励賞に値する人物として推薦します。</p>

第27回 久保田昭夫・久保田紀昭女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏及び久保田紀昭氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、学友会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を取った者に授与するものです。

<p>池本 凧沙</p> <p>法学部 3年 (水泳部)</p>	<p>第99回日本学生選手権水泳競技大会 女子100M自由形優勝、女子200M自由形優勝 第99回日本学生選手権水泳競技大会において、女子100Mおよび200M自由形で優勝した。</p> <p>今後も日本の競泳界での活躍が大きく期待される。</p>
<p>上野 優佳</p> <p>法学部 4年 (フェンシング部)</p>	<p>第76回全日本フェンシング選手権大会 女子フルーレ優勝 全日本学生フェンシング選手権大会（2023年） 女子フルーレ優勝 第76回全日本フェンシング選手権大会および全日本学生フェンシング選手権大会（2023年）において、女子フルーレで優勝した。</p> <p>今後も日本のフェンシング界での活躍が大きく期待される。</p>

第70回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

【優秀団体賞】

ハンドボール部	・高松宮記念杯第66回全日本学生ハンドボール選手権大会 優勝（3年連続6回目） ・2023関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦 優勝
軟式野球部	第46回全日本学生軟式野球選手権大会 優勝（4年ぶり4回目）

【努力団体賞】

準硬式野球部	・令和5年度 東都大学準硬式野球春季リーグ戦 優勝（7季連続69回目） ・令和5年度 東都大学準硬式野球秋季リーグ戦 優勝（8季連続70回目） ・第45回関東地区大学・社会人準硬式野球王座決定戦 優勝
剣道部（4名）	第17回全日本学生剣道オープン大会 優勝 中西 健吾（経2）、清水 祥貴（経2）、島地 龍（商2）、竹内 大也（文1）
女子卓球部	・2023年度（令和5年度）春季関東学生卓球リーグ戦 優勝（通算27回目優勝） ・2023年度（令和5年度）秋季関東学生卓球リーグ戦 優勝（通算28回目優勝 春秋連覇6回目）

【優秀団体部門賞】

自動車部	・2023年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 優勝（4回目） ・2023年度全関東学生ダートトライアル選手権大会 優勝（3回目）
フェンシング部（男子）	第63回全日本大学対抗選手権大会 男子サープル優勝

【努力団体部門賞】

フェンシング部（女子）	・第75回関東学生フェンシング選手権大会 女子フルーレ優勝
射撃部（3名）	2023年度関東学生スポーツ射撃選手権秋季大会50m3姿勢60発競技女子優勝 高木 葵（文3）、神村 彩実（文4）、仲高 彩花（商2）

【リレー賞】

水泳部（4名）	第99回日本学生選手権水泳競技大会 女子4×100mリレー優勝 澤野 莉子（文1）、今野 凛々香（文3）、長谷川 葉月（文1）、池本 風沙（法3）
---------	--

【最優秀選手賞】

上野 優佳	法学部 4年 （フェンシング部）	・フェンシング世界選手権2023 女子フルーレ団体 3位 ・第76回全日本選手権大会 女子フルーレ優勝 ・第73回全日本学生フェンシング選手権大会 女子フルーレ優勝 ・第75回関東学生フェンシング選手権大会 女子フルーレ優勝
-------	---------------------	---

【優秀選手賞】

宮崎 匠	法学部 4年 （陸上競技部）	FISUワールドユニバーシティゲームズ 男子110mハードル8位 男子4×100mリレー5位
金子 魅玖人	商学部 4年 （陸上競技部）	第25回アジア陸上競技選手権大会 800m出場
井本 一輝	法学部 4年 （水泳部）	・第99回日本選手権水泳競技大会2023 400m自由形優勝 ・第99回日本学生選手権水泳競技大会（競泳）1500m自由形優勝（2年連続） ・第19回アジア競技大会400m自由形5位 ・ワールドユニバーシティゲームズ 男子4×200mリレー優勝 男子400m自由形3位 男子1500m自由形6位
緒方 温菜	文学部 4年 （水泳部）	ワールドユニバーシティゲームズ 女子100m平泳ぎ4位 女子200m平泳ぎ7位 女子4×100mメドレーリレー3位
池本 風沙	法学部 3年 （水泳部）	・第99回日本学生選手権水泳競技大会（競泳）100m自由形優勝 200m自由形優勝 ・ジャパンオープン2023 100m自由形優勝 200m自由形優勝 ・世界水泳選手権2023 4×100mリレー8位 4×200mリレー9位
ウエノリュウイチ	商学部 4年 （ボクシング部）	第93回全日本ボクシング選手権大会 クルーザー級優勝（2年連続）
オヌ 太郎	商学部 3年 （バスケットボール部）	第19回アジア競技大会バスケットボール3×3 ベスト8
尾形 莉欧	国際経営学部 4年 （自動車部）	2023年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 男子個人の部 優勝
中澤 拓哉	経済学部 2年 （スキー部）	第97回全日本学生スキー選手権大会 ノルディックコンパインド競技 優勝
山崎 叶太郎	経済学部 1年 （スキー部）	第102回全日本スキー選手権コンパインド競技個人グンダーセン優勝
市田 龍生都	法学部 4年 （自転車競技部）	第78回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子1kmタイムトライアル優勝（3年連続）
吉田 陸矢	経済学部 2年 （射撃部）	2023年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会 10m立射60発競技男子優勝（2年連続）
川島 直也	経済学部 4年 （バドミントン部）	FISUワールドユニバーシティゲームズ団体ベスト8

【体育賞】

牧 温 人	法学部 2年 (軟式野球部)	第46回全日本学生軟式野球選手権大会 最高殊勲選手賞
吉 居 駿 恭	法学部 2年 (陸上競技部)	第100回東京箱根間往復大学駅伝競走 7区区間賞
濱 田 豊 喜	法学部 2年 (レスリング部)	全日本学生レスリング選手権大会 (フリースタイル) フリースタイル97kg級優勝
藤 原 直 也	経済学部 4年 (バレーボール部)	FISUワールドユニバーシティゲームズ11位
蒔 苗 勇 人	商学部 4年 (バスケットボール部)	FISUワールドユニバーシティゲームズ12位
木 村 幸 大	法学部 4年 (スキー部)	FISワールドカップ第8戦 (ドイツ オーベルドルフ大会) ノルディックコンバインド日本代表
神 村 彩 実	文学部 4年 (射撃部)	2023年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会 50m3姿勢60発競技女子優勝
吉 岡 桜 子	文学部 2年 (女子卓球部)	全日本大学総合卓球選手権大会 ダブルス優勝
川 畑 明 日 香	文学部 2年 (女子卓球部)	全日本大学総合卓球選手権大会 ダブルス優勝

【努力賞】

伊 禮 雅 太	法学部 4年 (ハンドボール部)	2023年度関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦 最優秀選手賞
石 井 竜 弥	商学部 4年 (準硬式野球部)	東都大学準硬式野球 春季リーグ戦 最優秀選手賞
山 崎 大 翔	商学部 4年 (準硬式野球部)	東都大学準硬式野球 秋季リーグ戦 最優秀選手賞
金 谷 武 龍	法学部 4年 (重量挙げ部)	第69回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会 男子73kg級優勝
湯 本 幸 耶	経済学部 4年 (スキー部)	第38回全日本学生チャンピオンズスキー大会クロスカントリー競技 優勝
保 坂 花	商学部 2年 (スキー部)	第39回全日本学生チャンピオンズスキー大会アルペン競技 女子GS 優勝
戸 谷 椋	法学部 2年 (スキー部)	第39回全日本学生チャンピオンズスキー大会アルペン競技 男子SL 優勝
杉 田 久 瑠 美	法学部 4年 (女子陸上競技部)	第29回関東大学女子駅伝対校選手権大会 4区 区間新記録
浜 野 光	文学部 2年 (女子陸上競技部)	第29回関東大学女子駅伝対校選手権大会 5区 区間新記録
田 路 遥 香	法学部 4年 (女子陸上競技部)	第102回関東学生陸上競技対校選手権大会 100m 優勝
植 松 史 弥	商学部 2年 (自転車競技部)	第63回全日本学生選手権トラック自転車競技大会男子タンデムスプリント優勝
熊 谷 海 飛	商学部 1年 (自転車競技部)	第63回全日本学生選手権トラック自転車競技大会男子タンデムスプリント優勝
枝 廣 愛	商学部 2年 (女子卓球部)	・2023年度 (令和5年度) 春季関東学生卓球リーグ戦 殊勲賞 最優秀ペア賞 ・2023年度 (令和5年度) 秋季関東学生卓球リーグ戦 殊勲賞 最優秀ペア賞
工 藤 夢	文学部 4年 (女子卓球部)	・2023年度 (令和5年度) 春季関東学生卓球リーグ戦 最優秀ペア賞 ・2023年度 (令和5年度) 秋季関東学生卓球リーグ戦 最優秀ペア賞

【特別賞】

山 崎 叶 太 郎	経済学部 1年 (スキー部)	2024 FISノルディックジュニア世界選手権ノルディックコンバインド混合 団体 NH HS102/4×5 Km 2位
五 十 嵐 洸 太	自転車競技部	自転車競技ロードにおいて 中央大学の名声を高めチームに貢献した

【学長賞】

宮 崎 匠	法学部 4年 (陸上競技部)	FISUワールドユニバーシティゲームズ 男子110mハードル8位 男子4×100mリレー5位
金子 魅 玖 人	商学部 4年 (陸上競技部)	第25回アジア陸上競技選手権大会 800m出場
井 本 一 輝	法学部 4年 (水泳部)	<ul style="list-style-type: none"> ・第99回日本選手権水泳競技大会2023 400m自由形優勝 ・FISUワールドユニバーシティゲームズ 男子4×200mリレー優勝 男子400m自由形3位 男子1500m自由形6位 ・第99回日本学生選手権水泳競技大会(競泳) 1500m自由形優勝 <ul style="list-style-type: none"> ・第19回アジア競技大会400m自由形5位
緒 方 温 菜	文学部 4年 (水泳部)	FISUワールドユニバーシティゲームズ 女子100m平泳ぎ4位 女子200m平泳ぎ7位 女子4×100mメドレーリレー3位
池 本 凧 沙	法学部 3年 (水泳部)	<ul style="list-style-type: none"> ・第99回日本学生選手権水泳競技大会(競泳) 100m自由形優勝 200m自由形優勝 ・ジャパンオープン2023 100m自由形優勝 200m自由形優勝 ・世界水泳選手権2023 4×100mリレー8位 4×200mリレー9位
ウエノリュウイチ	商学部 4年 (ボクシング部)	第93回全日本ボクシング選手権大会 クルーザー級優勝
オヌ 太 郎	商学部 3年 (バスケットボール部)	第19回アジア競技大会バスケットボール3×3 ベスト8
尾 形 莉 欧	国際経営学部 4年 (自動車部)	2023年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 男子個人の部 優勝(2年連続)
上 野 優 佳	法学部 4年 (フェンシング部)	<ul style="list-style-type: none"> ・フェンシング世界選手権2023 女子フルーレ団体 3位 ・第76回全日本選手権大会 女子フルーレ優勝 ・第73回全日本学生フェンシング選手権大会 女子フルーレ優勝 ・第75回関東学生フェンシング選手権大会 女子フルーレ優勝
中 澤 拓 哉	経済学部 2年 (スキー部)	第97回全日本学生スキー選手権大会 ノルディックコンバインド競技 優勝
山 崎 叶 太 郎	経済学部 1年 (スキー部)	第102回全日本スキー選手権コンバインド競技個人グンダーセン優勝
市 田 龍 生 都	法学部 4年 (自転車競技部)	<ul style="list-style-type: none"> ・第78回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子1kmタイムトライアル優勝 ・第78回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子ケイリン優勝
吉 田 陸 矢	経済学部 2年 (射撃部)	2023年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会 10m立射60発競技男子優勝
川 島 直 也	経済学部 4年 (バドミントン部)	FISUワールドユニバーシティゲームズ団体ベスト8

第41回 学員会会長賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて特に優秀な成果を収めた者に授与するものである。

【学術・文化・社会の分野】

根本開	理工学部 4年	根本開さんは、確かな基礎学力をもとに、数多くの実験を粘り強く行うことにより、上記の卓越した成果を生み出した。協調性と自主性を兼ね備え、自らの視点で研究を進めることのできる 素晴らしい優秀な学生である。高分子材料にたいへん興味を持っており、2024年4月からは当該分野で著名な東京工業大学物質理工学院応用化学系戸木雅利教授の研究室への進学が決まっている。近い将来、前途有為な若手研究者として活躍するものと期待され、学員会会長賞候補の最適人物と判断する。
石野史華	総合政策学部 3年	石野さんは、2023年度インドネシア語スピーチコンテスト（神田外語大学主催・在日本インドネシア共和国大使館後援）において、インドネシア語学習4年以内学生を対象にしたカテゴリーBにおいて最優秀賞に入選した。同コンテストは全国レベルの大会であり、その結果は称賛に値する。
迫和惟さん、織戸光さんのチーム	法学部	迫・織戸ペアは、「農福ふるさと村プロジェクト〜ワタリ鳥で持続可能に〜」というテーマを立てて、農業と介護を通じて地域として支えあう「農福ふるさと村」に、ASEANからの技能実習生が参加できる仕掛けを作ること、日本・ASEAN間の農業・介護人材の育成・交流を進めて行く提言を行った。丁寧な事前準備により、新規性がある提言を現実的かつ明快な方法に落とし込んだものとし、聴衆に伝わりやすい形でプレゼンテーションをしたため、審査委員長から「大学1年生の方々の立派な発表を拝見して感心した。」というコメントをいただいた。受賞後は外務大臣への表敬訪問も行い、今後の進路や抱負なども交えた懇談を行った。これらを踏まえて、本賞の受賞に相応しい候補チームとして、ここに推薦したい。
中央大学経済学部 江川章ゼミ MOTTAINAI 三浦碧莉（他5名）	経済学部	本研究は、SDGsの目標12の3で取り上げられている食品廃棄物の削減を図るための再生利用（肥料化）に着目したものである。外食産業や流通業者から出される食品廃棄物は収集先が小口・分散しているため、効率的な収集・運搬が課題となる。このことに関して、本研究は廃棄物の収集・運搬のノウハウを有する廃棄物処理業者が肥料原料（食品廃棄物）の調達と肥料化に一体的に取り組めば、効率のかつ安価な肥料の製造が可能となるという仮説を立て、それを現地調査によって実証した。詳細な調査をもとに、食品廃棄物の収集・運搬・再生利用を一体的に行う意義を明らかにしたという点で、学術的な面で貢献があることから、本賞に推薦する。
和田光平ゼミナール 伊藤藤 班 伊藤初音（他4名）	経済学部	本発表会は、大学コンソーシアム八王子加盟の25大学等で学ぶ学生が、日頃の学修の成果を発表して新たな価値を発見・創造し、大学等や八王子地域の発展に寄与することを目的としています。当該学生を含むチームが発表した「八王子市長へ直接提案」は、「市政提案セッション」に多数応募された中から事前に選ばれた8団体のみが市長の前で発表できるものです。当該チームは、市が段階的に取り組む活動地域移行において想定される課題の解決案や緻密な資金計算や導入計画などから、市政の有用性や実現可能性が審査員に高く評価されました。
商学部渡辺ゼミ・三浦大翼 （グループ名： フォレゲの民よ） （他5名）	商学部	SPJは2011年から毎年開催され、スポーツ産業学会主催の学術的なプレゼン大会である。本年度は24大学・61チーム・314名の学生が参加しており、日本におけるスポーツ政策やスポーツ産業に関する大会としては最大規模である。PwC賞を受賞したグループは、約1年間に及ぶ研究活動の中で、近年スポーツ組織で盛んに行われている社会貢献活動の生起メカニズムが未解明であることを問題意識に据え、社会貢献活動の促進要因としてスポーツ組織の構成員の感謝感情に着目し、同活動の促進メカニズムを、ヒアリング調査や大規模サンプルの統計分析を駆使して実証している。そして、その分析結果に基づき、スポーツ組織の運営実践に対して積極的な提案を行っている。最後に付言すると、PwC賞の受賞チームには、プレゼンされた内容をさらに発展させ、そこで提案されたスポーツ組織の運営実践の実現に向けて働きかけるために、スポーツ産業学会から研究奨励金を授与される予定であり、その発展させた内容は、日本スポーツ産業学会の学会誌である『スポーツ産業学研究』に、論文として掲載されることになっている。
iDS演習中村研究室（出田隼也・丸野雄一）丸野雄一（他1名）	総合政策学部	本候補者は、WEST論文研究発表会において報告した論文で、各分科会で最も優れた論文に対して贈られる「分科会賞」を受賞している。この論文研究発表会は、経済学に基づく実効性のある政策提言を目的として開催される全国規模のものであり、本年度は計71編の論文が発表されている。各論文は行政実務家と各分野の専門家（大学教員）によって査読されており、推薦候補者の論文はそこで高く評価された結果、同賞を授与されている。これは本学の教育・研究機関としての名声を大いに高める学術的な活動成果であると評価でき、本賞候補者として強く推薦する。
FLP山崎ゼミC生 杉山周政（他1名）	総合政策学部	杉山周政および平山雄大の2名は、FLP山崎ゼミに参加し、多摩団地のコミュニティ再生について継続的な調査を行ってきた。2年半にわたる現地調査および文献調査をもとに、多摩団地のコミュニティ再生について、斬新な活性化策を提示し、多くの審査委員から高い評価を得て、ビジネス優秀賞を受賞した。さらに、政策提言のみならず、学術的な価値も評価され、学術賞の奨励賞もダブルで受賞した。彼らの継続的な調査研究および今回のダブル受賞は、学員会会長賞への推薦に値すると考える。
FLPジャーナリズムプログラム 松野良一ゼミ 伊藤光雪（他19名）	国際情報学部	FLPジャーナリズムプログラム松野良一ゼミは2019年度から、特攻隊として戦死した中大学徒の記憶を掘り起こし、後世につなげていこうというプロジェクト「特攻と中央大学」を継続している。これまでに、航空特攻のほか、人間魚雷「回天」、人間爆弾「桜花」、水上特攻を行った「戦艦大和」にも中大関係者が乗っていたことを突き止めた。その数は合計で約70人。本ドキュメンタリーは、その過程で発見した富澤健児さん（中大専門部商科夜間部、1943年9月繰り上げ卒業）の日記12冊を軸に制作した。彼は卒業と同時に特別操縦見習士官になり、1945年4月6日に沖繩方面で特攻戦死した。彼の学生生活、夢、特攻命令と葛藤、遺書の内容が盛り込まれ、映像作品として高く評価され、2つの受賞につながった。

【スポーツの分野（個人）】

宮崎匠	法学部 4年 (陸上競技部)	FISUワールドユニバーシティゲームズ 男子110mハードル8位 男子4×100mリレー5位
金子魅玖人	商学部 4年 (陸上競技部)	第25回アジア陸上競技選手権大会 800m出場
井本一輝	法学部 4年 (水泳部)	・第99回日本選手権水泳競技大会2023 400m自由形優勝 ・FISUワールドユニバーシティゲームズ 男子4×200mリレー優勝 男子400m自由形3位 男子1500m自由形6位 ・第99回日本学生選手権水泳競技大会（競泳）1500m自由形優勝（2年連続） ・第19回アジア競技大会400m自由形5位
緒方温菜	文学部 4年 (水泳部)	FISUワールドユニバーシティゲームズ 女子100m平泳ぎ4位 女子200m平泳ぎ7位 女子4×100mメドレーリレー3位

池 本 風 沙	法学部 3年 (水泳部)	・第99回日本学生選手権水泳競技大会(競泳)100m自由形優勝 200m自由形優勝 ・ジャパンオープン2023 100m自由形優勝 200m自由形優勝 ・世界水泳選手権2023 4×100mリレー8位 4×200mリレー9位
ウ エ ノ リ ユ ウ イ チ	商学部 4年 (ボクシング部)	第93回全日本ボクシング選手権大会 クルーザー級優勝(2年連続)
オ ヌ 太 郎	商学部 3年 (バスケットボール部)	第19回アジア競技大会バスケットボール3×3 ベスト8
尾 形 莉 欧	国際経営学部 4年 (自動車部)	2023年度全日本学生ダートトライアル選手権大会 男子個人の部 優勝
上 野 優 佳	法学部 4年 (フェンシング部)	・フェンシング世界選手権2023 女子フルーレ団体 3位 ・第76回全日本選手権大会 女子フルーレ優勝 ・第73回全日本学生フェンシング選手権大会 女子フルーレ優勝 ・第75回関東学生フェンシング選手権大会 女子フルーレ優勝
中 澤 拓 哉	経済学部 2年 (スキー部)	第97回全日本学生スキー選手権大会 ノルディックコンバインド競技 優勝
山 崎 叶 太 郎	経済学部 1年 (スキー部)	第102回全日本スキー選手権コンバインド競技個人グンダーセン優勝
市 田 龍 生 都	法学部 4年 (自転車競技部)	・第78回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子1kmタイムトライアル優勝(3年連続) ・第78回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子ケイリン優勝
吉 田 陸 矢	経済学部 2年 (射撃部)	2023年度全日本学生スポーツ射撃選手権大会 10m立射60発競技男子優勝(2年連続)
川 島 直 也	経済学部42年 (バドミントン部)	FISUワールドユニバーシティゲームズ団体ベスト8
【スポーツの分野(団体)】		
ハ ン ド ボ ー ル 部		・高松宮記念杯第66回全日本学生ハンドボール選手権大会 優勝 ・2023年度関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦 優勝
軟 式 野 球 部		第46回全日本学生軟式野球選手権大会 優勝

第8回 学員会会長奨励賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与する学員会会長賞に準ずる者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

深澤あまね	法学部 3年	深澤さんは、チーム名「地域魅力向上委員会」の一員として参加し、「地域で働くライフスタイルによる2024年問題の解決案！」というテーマでアイデアをまとめ上げた。労働力人口の減少という日本が抱える社会問題に真摯に向き合い、果敢に取り組むためのアイデアをデータに基づき提案し、プレゼンテーションを行った結果として、特別賞を受賞した。深澤さんは、チームリーダーとして当該チームをまとめるために尽力したことから、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦したい。
齋川明日香	理工学部 4年	数学を学ぶ態度を早い段階で身に付けており、数学の学問の深さの側面を理解している。また、数学を学んでいく中で湧いてきた疑問について、自ら積極的に調べなおし、関連書籍を調べるなどして、課題を理解するように努力している。さらに、友人などと議論して数学的な理解をさらに深めようとしている。
井關聖音	理工学部 3年	井關さんは、自らが興味をもつ物理学に関して、講義における勉学のみならず、卓越したコミュニケーション能力と行動力によって立体的な学びを深めている模範的な学生である。例えば、交換留学制度によるデンマーク滞在中には、自ら研究者にコンタクトをとり、世界最先端の加速器施設であるスイスのCERNにおけるLow Energy Ion Ring、LHCbなどへの訪問・見学を実現した。またフジシール財団の奨学生に採択され、物理を用いたパッケージ開発のグループワークにも参画し活躍している。留学体験記の執筆等を通じて学びの成果も学内外に発信しており、中央大学学員会会長奨励賞の受賞に相応しい学生である。
川村勇斗	理工学部 4年	川村勇斗君は、2020年に中央大学理工学部都市環境学科に入学以降、継続して勉学に励み、優秀な成績を修めてきました。明朗闊達な人柄で、仲間を率先的にリードするとともに、周囲に配慮もできる姿勢は学生同士の相互評価が高いです。それは、理工学部奨学金選考の面接において「学科内で奨学金を与えるべき生徒はだれか」という質問に対して候補者内から多くの票を集め、学部長賞を受賞したことからもわかります。現在、日本橋地区の地域振興を学生主体で活動する日本橋学生工房の共同代表として活躍しています。また、(公財)前田記念工学振興財団の学生対象研究助成特別研究に採択され、約2週間、タイ国で自主調査研究をしてきました。以上のことから、川村勇斗君は他の学生の模範であり、会長奨励賞の候補者として強く推薦します。
小野関祐介	理工学部 4年	小野関祐介氏は4年間、様々な専門分野に興味を持ち学問に取り組み、精密機械工学科において非常に優秀な成績を修めている。また、修得単位数も他学生と比較して多く、学習意欲が高いことが示されている。更に成績優秀であることから入学以来、毎年中央大学理工学部給付奨学金を付与されており、3年次には学部長賞を受賞している。4年次の研究では、「縦ステレオ全天球カメラでの物体認識情報を用いた意味地図内位置姿勢推定」に関して、研究室内の指導教員や他の学生と積極的にコミュニケーションを図りながら、迅速かつ実直に研究に打ち込んでいる。以上のように、小野関祐介氏の学問への姿勢、人物像は学生の範となるものであることから、ここに中央大学学員会会長奨励賞の学生候補生として推薦する。
細川晃輔	理工学部 4年	専門科目や実験科目において、熱心に勉学に励み、最も優れた成績を修めている。学んだ知識や実験で得た知見を活かして、卒業研究の実験を確実に進めて、新しい成果を早い段階で出している。すべての学生の見本となる存在である。以上のことから、細川君を学員会会長奨励賞の候補として強く推薦する。
服部亮太	理工学部 4年	服部亮太さんは、確かな基礎学力をもとに、数多くの実験を粘り強く行うことにより、上記の卓越した成果を生み出した。その内容は、日本化学会第104春季年会で発表される(本人が口頭発表)。協調性と自主性を兼ね備え、自らの視点で研究を進めることのできるきわめて優秀な学生である。2024年春からは中央大学大学院博士前期課程に進学し(推薦入学)、引き続き本学で研鑽を積むことが決まっている。近い将来、前途有為な若手研究者として活躍するものと期待され、学員会会長奨励賞候補の最適者と判断する。
池庄司誠己	理工学部 4年	候補者は数学の教員になるのを目指し、在学中一貫して熱心に学業に取り組み学年首位の好成績を収めた。数学の勉強も好きであるが、他の人に教えるのはより好きとのことで、大学で友人に教えたり塾講師のアルバイトをするのももちろん、地元の横浜市を中心とするボランティア団体の活動に参加して子どもたちに勉強を教える取り組みを行ってきた。特に不登校児の学習支援には熱心な取り組みを現在も継続中である。このような申請者の活動は、将来教員になった時に活かされると期待されるだけでなく、地域貢献活動としても高く評価される。以上のことから、候補者の池庄司氏を学員会会長奨励賞にふさわしい者として推薦する。
小林千紘	理工学部 4年	小林千紘さんは情報工学科入学時より現在に至るまで、4年間にわたり常にトップクラスの成績を収め、学習意欲と能力のいずれも非常に高い水準の学生である。また、国家公務員採用総合職試験にも上位の成績で合格した。卒業研究にも意欲的に取り組んでおり、大学院進学後にはさらなる研究の発展や国際会議での論文発表等が期待される。以上のことから、小林さんを本賞の趣旨に相応しい人物として推薦する。
岩崎睦季	理工学部 4年	岩崎睦季さんがポスター発表した第14回極域科学シンポジウムは、300名を超える国内外の極地や極限環境の研究者が集まる著名な研究会です。そのような一線で活躍する研究者が集まる学会において、学部4年生が発表するだけでも非常に珍しいことですが、岩崎睦季さんが4月から開始した研究成果でポスター発表したことは驚嘆に値します。このことは、如何に岩崎睦季さんが日頃から活発な研究活動を行っているかを端的に表しており、その卒業研究に向かう姿勢は他の多くの学生の模範とも言えるものです。
林美玖	理工学部 3年	本国際会議は、International Life Saving Federation(国際ライフセービング協会)が主催する権威ある国際会議である。本会議において、査読を経た演題が口頭発表の機会を与えられるが、林美玖さんは学部3年生ながら、口頭発表演題に採択され、12月6日に発表を行った。これは極めて異例の快挙であり、本学学生のグローバルな活躍を促進するための優れたロールモデルとなりうる事案である。このような先駆的な挑戦に対し、中央大学学員会奨励賞を以て報いるべきと考え、ここに林美玖さんを推薦する次第である。

浅 沼 花 奈	総合政策学部 2年	浅沼さんは、2023年度インドネシア語スピーチコンテスト（神田外語大学主催・在日本インドネシア共和国大使館後援）でインドネシア語学習2年以内学生を対象にしたカテゴリAにおいて優秀賞に入選した。同コンテストは全国レベルの大会であり、その結果は称賛に値する。
波 田 陽 一 郎	総合政策学部 3年	波田さんは、2023年度インドネシア語スピーチコンテスト（神田外語大学主催・在日本インドネシア共和国大使館後援）において、インドネシア語学習4年以内学生を対象にしたカテゴリBにおいて優秀賞に入選した。同コンテストは全国レベルの大会であり、その結果は称賛に値する。
シェザード 樽塚 紗奈	総合政策学部 2年	シェザード樽塚紗奈さんは、苦手意識のある理数系・情報系の学問分野を克服しようと自らこのプログラムに参加し、優秀証を獲得した。また、ここで得た学びを学部での学びに活かすべく積極的に学修に取り組む姿勢を見せている点について評価に値し、今後の活躍に期待することから、学員会会長奨励賞に推薦したい。
大 和 田 光 紀	国際情報学部 4年	当該学生は、入学以来、正課内外での学修・研究活動を精力的に進めてきた。このたび、当該学生は「情報処理安全確保支援士試験」に合格した。本試験の合格者は「サイバーセキュリティに関する専門的な知識・技能を活用して企業や組織における安全な情報システムの企画・設計・開発・運用を支援し、また、サイバーセキュリティ対策の調査・分析・評価を行い、その結果に基づき必要な指導・助言を行う者」（実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋）と位置付けられており、本学部卒業後の活躍も大いに期待される。人物も申し分なく、国際情報学部を代表する学生として、本奨励賞に推薦する。
内 田 杏 実	国際情報学部 2年	当該学生は、入学当初から、正課内外での学修・研究活動を精力的に進めてきた。このたび、当該学生は「応用情報技術者試験」に合格した。本試験の合格者は「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」（実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋）と位置付けられており、2年次で合格を果たしたことは高く評価できる。情報系の資格のみならず、法律系・国際系の資格試験の受験も視野に入れており、本学部の理念を正確に理解した学生としてますますの活躍が期待されることから、本奨励賞に推薦する。
布 施 真 志	国際情報学部 3年	当該学生は、入学当初から、システムエンジニアとして社会貢献したいとの目標を持ち、正課内外での学修・研究活動を精力的に進めてきた。このたび、当該学生は「応用情報技術者試験」に合格した。本試験の合格者は「高度IT人材となるために必要な応用的知識・技能をもち、高度IT人材としての方向性を確立した者」（実施団体：情報処理推進機構WEBサイト抜粋）と位置付けられている。今後、さらに上位の資格試験の受験も視野に入れており、ますますの活躍が期待されることから、国際情報学部を代表する学生として、本奨励賞に推薦する。
飯島大邦研究会 吉野樹（他2名）	経済学部	論文では、食料安全保障の観点から、畜産業に用いられる飼料の自給率上昇を目指して政策提言がなされています。パネルデータ分析による仮説検証を行い、その結果を踏まえて政策提言がなされていることにより、政府が推進するEBPM（証拠に基づく政策立案）の実践例として高く評価できます。また、30大学124研究チームが参加したISF日本政策学生会議において、上記論文は、複数の他大学の農業経済学の専門家により評価がなされており、現実の政策現場にとっても重要な問題に対してしっかりとした政策提言がなされていることが、高く評価されました。
中央大学経済学部 江川章ゼミ お九連 渡辺航也（他5名）	経済学部	本研究は、農業の売上向上につながる販売チャネルの構築・拡大の方策に関して現地調査をもとに検討している。調査結果から、販売チャネルの拡大には「こだわりを持ち、能動的に対人関係を作っていくこと」が重要であることを明らかにした。対人関係を作るうえで、SNSは近年重要な手段になっているが、農産物の販売チャネルの構築・拡大においては、消費者と顔のみえる関係を直接築く方がSNSよりも効果的であることを示している。その理由として、農産物は工業製品と異なり、その品質や安全面では生産者自身の素性や取組み、コミュニケーションが重視されることを挙げている。このように、農業の売上向上に資する農産物の販売チャネルの構築・拡大の方策を実地に基づいて明らかにしたことは、実践的・学術的な面で農業振興に貢献することから、本賞に推薦する。
経済学部 佐々木創ゼミ 第2班 海物語班 網中悠乃（他3名）	経済学部	環境経済学を専門とするゼミによる第11回環境経済・政策インターゼミナール大会が2023年12月16日（土）に成蹊大学経済学部で開催された。今年の参加校は、立教大学、成蹊大学、大阪経済大学、東海大学、中央大学から合計12チームの研究報告があり、当該研究が最優秀賞を受賞した。本報告は、これに先立って実施された中央大学経済学部ゼミナール大会でも優勝している。したがって、立教大学などの同規模大学と比較しても、学内大会のレベルの高さを示し、学内のゼミ活動の活性化に繋がり、経済学部の広報効果としても高く評価できるため、中央大学学員会会長奨励賞に推薦する。
篠原正博ゼミA班 菅野瑞稀（他4名）	経済学部	A班の研究は、先行研究では手薄であった少子化に関する「恋愛の壁」に注目し、アンケート調査により得られた個票データをベースとして、質的従属変数の分析を行ったものである。その結果、「コミュニケーション能力が高いほど恋愛の壁を超えやすい」といった、一見常識的な仮説が、男子学生には成り立つが女子学生には成立しないことを明らかにした。分析対象が中大生に限定されていること、女子学生において仮説が成立しない理由が今ひとつ不明確であることなどの課題が残されているが、仮説設定、データ分析のプロセスは手堅く、その点が外部評価につながったと考えられる。したがって、本賞の受賞に相応しい候補者として推薦する。
和田光平ゼミナール三井班 三井 乾（他4名）	経済学部	本発表会は、大学コンソーシアム八王子加盟の25大学等で学ぶ学生が、日頃の学修の成果を発表して新たな価値を発見・創造し、大学等や八王子地域の発展に寄与することを目的としています。当該学生を含むチームが発表した「八王子市長へ直接提案」は、「市政提案セッション」に多数応募された中から事前に選ばれた8団体のみが市長の前で発表できるものです。当該チームは、市が段階的に取り組む活動地域移行において想定される課題の解決案や緻密な資金計算や導入計画などから、市政の有用性や実現可能性が審査員に高く評価されました。

第25回 法曹会賞

本賞は、中央大学法曹会が、毎年卒業する学生のうち、学業成績優秀または文化活動に顕著な功績を挙げた卒業生に対して授与するものです。

中川遼	法学部 4年	在学4年次に司法試験合格
-----	--------	--------------

第38回 南甲倶楽部賞

本賞は学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にて学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めると共に本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。(南甲倶楽部は実業界で活躍するOBが組織する団体)

岩佐遥介	法学部 4年	法学部卒業生の中で、在学中の学業成績が優秀であり、かつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員からの信頼も厚い。
飯塚美里	経済学部 4年	本年度経済学部卒業生の中で、極めて優秀な学業成績を修めた。経済総合分野・領域を重点的・系統的に学修し、経済総合クラスターを修了している。また、ゼミ活動においても積極的に活動しており、「プロテスタントが与えた経済への影響について」に関する演習論文を書き上げた。学業に取り組むその姿勢は、学生の模範となるに相応しく、南甲倶楽部賞受賞候補者として適格であると判断し、ここに推薦する。
山田和輝	商学部 4年	本年度商学部卒業生の中で学業成績が優秀であり、難関とされる公認会計士試験に在学中に見事合格した。
山名美紀	理工学部 4年	山名美紀さんは勤勉で向学心に溢れる学生で、数学科において大変優秀な成績を収めています。所属する統計科学研究室では4年次前期にベイズ推論に基づく機械学習の理論と諸手法を学んだ後、後期には研究テーマをスイッチし統計的因果推論および因果探索について学びました。通常の倍ほどのペースでテキストを読み進め、非常に食欲に研究活動に取り組みました。さらに理論を学ぶのみならず、共通の実データを元に参加者が分析を競う「データ解析コンペティション」に参加し、応用的な研究にも取り組んでいます。コンペでは飲料のPOSデータに基づき、時系列データのロバストな季節トレンド成分分解である STL 分解 (Cleveland et al., 1990) により売上げが低下している商品カテゴリを見出し、その商品カテゴリに対して Causal Impact (Brodersen et al., 2015) による介入効果推定を活用して売上げを回復させるための施策提案を行いました。学問に取り組む姿勢や研究内容の理解度、セミナーでの説明力は卓越しており、大学院での研究の発展が期待されます。以上の理由により、南甲倶楽部賞受賞の候補者として推薦いたします。
鈴木賀子	文学部 4年	鈴木さんはとても成績が優秀ですが、私の授業においても、ただ真面目に講義を聞くだけではなく、必ずしも正解がある訳ではない問題についても、その本質にさまざまな視角から迫ることで、自分なりの回答を導き出そうとする積極的な姿勢を、常に持ち続けてきました。また、私の指導の下で作成した卒業論文は、日本の戦国時代の社会に広範に存在した「半手」と呼ばれる習俗を研究テーマとしたものですが、これまでの「半手」研究では着目されることのなかった新出史料を発掘しただけでなく、独自の視点から作成したオリジナルな表を用いて、「半手」の習俗の地域差や、時代的な変化について説得的な議論を展開するなど、きわめてレベルの高い卒論を完成させました。そんな彼女は、ゼミの中でも他の学生から一目置かれる存在でしたが、以上のように、彼女の勉学に対するとり組みは称賛に値するものであり、その能力は社会人となってからも、必ずや必要な力であると確信いたします。よって、ここに責任をもって鈴木賀子さんを南甲倶楽部賞に推薦いたします。
大川航生	総合政策学部 4年	大川航生さんは総合政策学部の中でも卓越して優秀な成績を収め、GPAは在籍する国際政策文化学科においてトップである。ゼミ活動にも積極的に取り組み、スポーツが生み出すシンビックプライドと地域活性化に関する研究した卒業論文は、プロサッカークラブが地域活性化の原動力となりうるかについて論じ、非常に秀逸なものであった。よって、大川さんを南甲倶楽部賞受賞の候補者として推薦する。
鴨田遥平	国際経営学部 4年	推薦学生は、早期卒業候補者として勉学に励み、優秀な学業成績を修め、本学大学院経済学研究科への進学も決定している。また、国際経営学部の公認学生団体「Venture Code」を率いて、国際経営学部の学生のITへの知見、特にプログラミングの経験を向上させる活動に取り組み、顕著な活躍をした。
富島悠介	国際情報学部 4年	富島悠介さんは、受講科目全般において優秀な成績を収めましたが、とりわけ国際情報演習において、3年間リーダーとしてその力を存分に発揮し、ゼミ学生全員をよくまとめ、ゼミ学生全員が学習能力を高めるよう尽力しました。また、2022年9月より高度IT活動サークルを立ち上げ、1年間で83名(2023年9月時点)が所属する学内横断的的巨大テックコミュニティへと育て上げました。さらに特筆すべきは、富島悠介さんの研究能力の高さです。情報処理学会 第84回全国大会において「顔認証システムの倫理的課題について—人工知能とバイアス」を発表し、学生奨励賞を受賞し、卒業論文ではDXに関する定量分析論文を作成し、その水準は非常に優れ、大学院生の水準に相当しています。

第19回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

権慧蓮	総合政策研究科 博士課程前期課程 総合政策専攻	「韓国における中国朝鮮族社会の形成と発展について—中国朝鮮族の移動文化と生活様式の分析を通して—」というテーマで、中国朝鮮族社会形成過程及び移動の実態について、立体的・総合的な分析を行い、完成度の高い修士論文をまとめました。また、総合政策学部の入学当時から「政策」と「文化」の多方面にわたる分野を積極的に探求し、つねに深く問題を掘り下げようとする精力的な姿勢には特筆するものがあります。学部の卒業論文では、移動のプッシュプル理論の大きな要素でもある、韓国の海外同胞関連政策及び中国の改革開放政策の展開過程を明らかにし、卒論への高い評価と普段からの積極的な研究姿勢等が総合的に評価され、総合政策学部においても早期卒業を果たしております。いずれの研究も、彼女の優れた言語能力と、関連文献を丹念に収集・咀嚼する力が基盤となっており、自身の高いコミュニケーション能力も相俟って、将来的には東アジアの架け橋として、大きな役割を果たせると期待できる人物であります。
-----	-------------------------------	--

第10回 東京白門ライオンズクラブ法務研究科学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、将来法曹として活躍が期待される人材の育成に資することを目的として、社会実務等の経験を有して法務研究科に入学し、在学中の業績が顕著と認められた学生に授与するものです。

西森智子	法務研究科 専門職学位課程 法務専攻	社会人としての経験がプラスに働いていることは疑いもないところですが、クラスの中でもリーダーシップを発揮して、ゼミ(勉強会)を組織したり、他の学生を誘い合わせてオフィスアワーに訪ねて来たり、とりわけ学修に苦労している学生に対し時間をかけてアドバイスをしたりしています。人望があり、他の学生たちから信頼されています。短い期間のうちに初級段階を脱し、いまや中級者として驚くほど精力的に学修を進めています。学修に立ち向かう積極性・熱心さ、真摯さにおいて、これまでには出会ったことのない稀有な人です。
------	--------------------------	---